

4 - 5 東海地域の歪計連続観測結果について

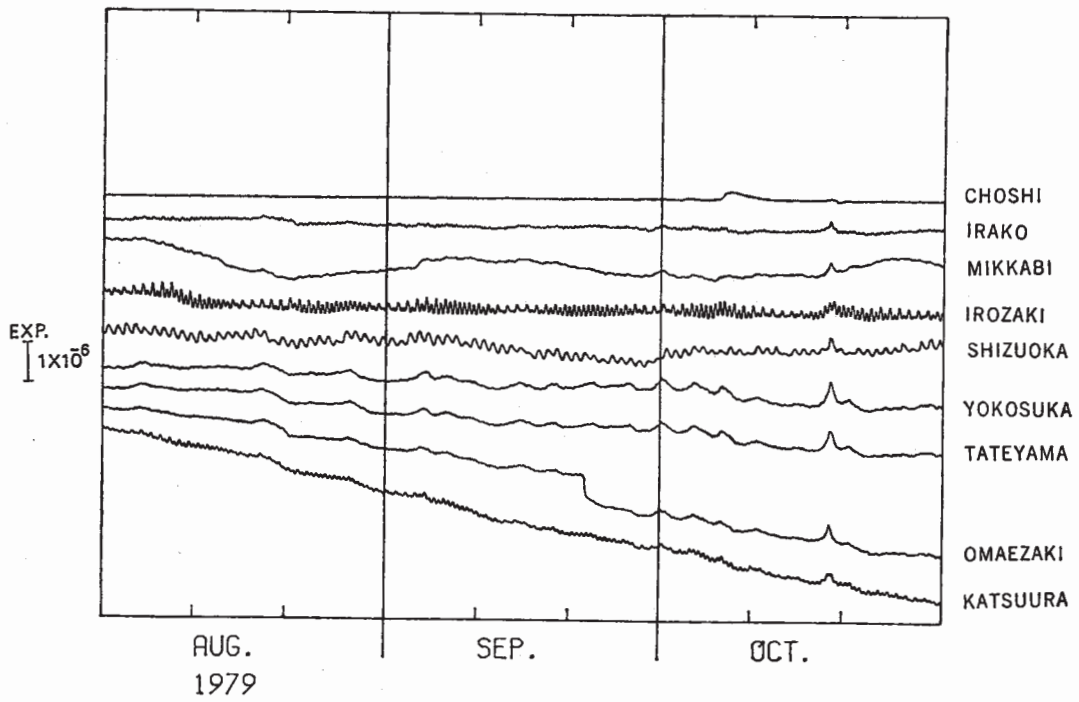
Continuous Observation of Crustal Deformation by the Borehole Strainmeters Along Tokai Coast

気象庁 地震予知情報室

OIEP, Seismological Division, Japan Meteorological Agency

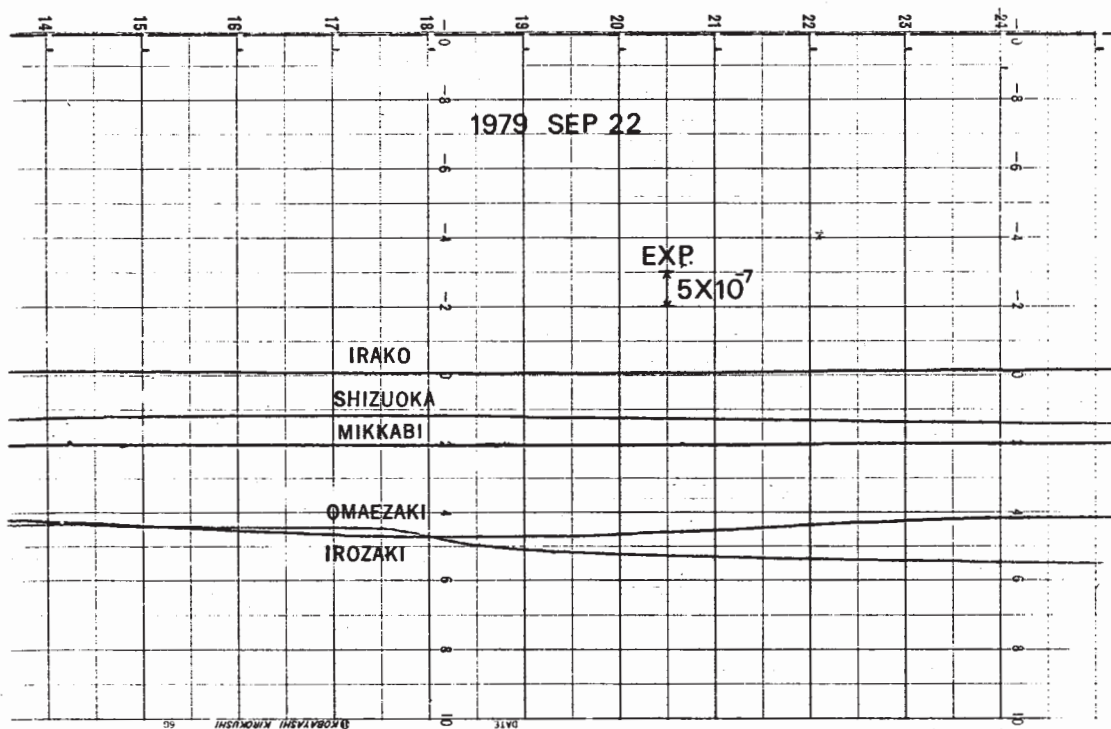
第1図は昭和54年8月から10月に至る東海と南関東地域の埋込式体積歪計の時間変化を示したものであるが、御前崎の歪計は9月22日に他の観測点に比べて異常な縮み変化を示している。第2図と第3図がその記録である。これによると、御前崎の歪計は9月22日17時35分頃から急に縮みの変化を始め、3時間に 4.4×10^{-7} に達した。しかし、図のように、他の観測点にはそのような変化は観測されず、隣接している浜岡、榛原の観測点にも異常は観測されなかった。また、第4図のように御前崎測候所構内の地下200mに埋設されている傾斜計と温度計、御前崎港の潮位計にも変化はなく、国土地理院、国立防災科学技術センター、地質調査所、東京大学地震研究所、名古屋大学等から伝送されている東海地域の他の地点の伸縮計、傾斜計、潮位計、水位、水質、ラドン濃度等の記録にも変化は観測されなかった。そこで、現象があまりにも局地的に現われたので、歪計の測器によるものかどうかを検証するため、地中変換部のバルブオープン操作の結果、測器によるものでないことが確かめられた。

従って、9月22日17時35分頃から始まった御前崎の歪計の縮み変化の異常は、極めて局地的な現象であり、このような現象も存在することが明らかになった。



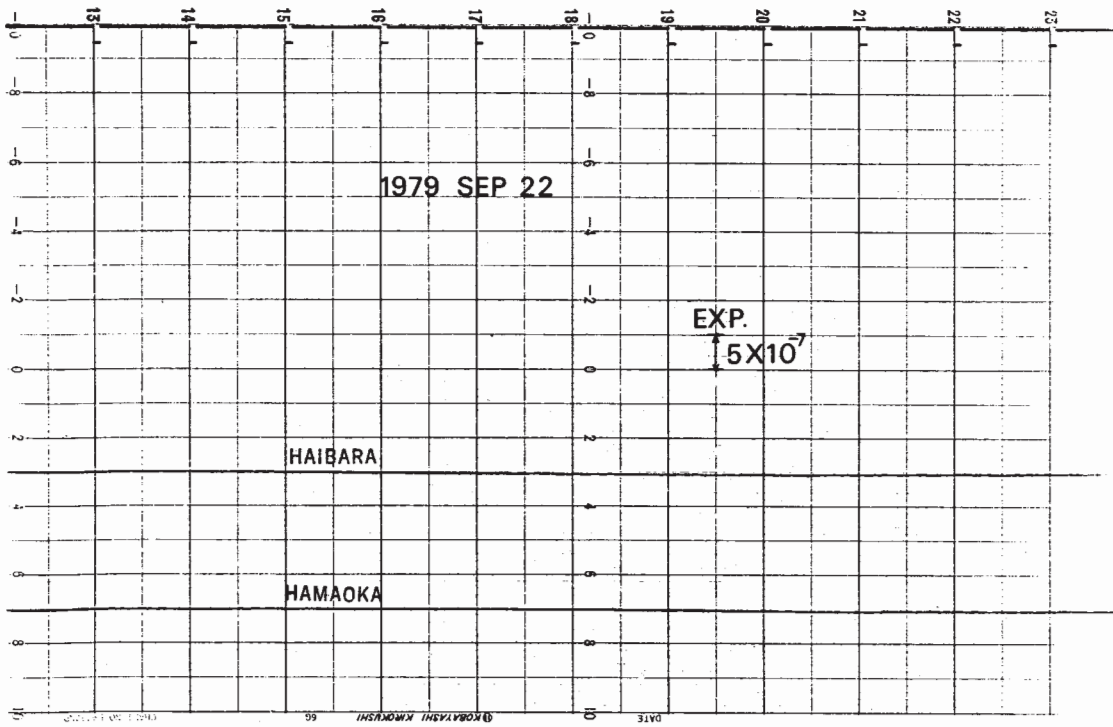
第1図 埋込式歪計による連続時間変化

Fig. 1 Secular strain change by borehole strainmeters.



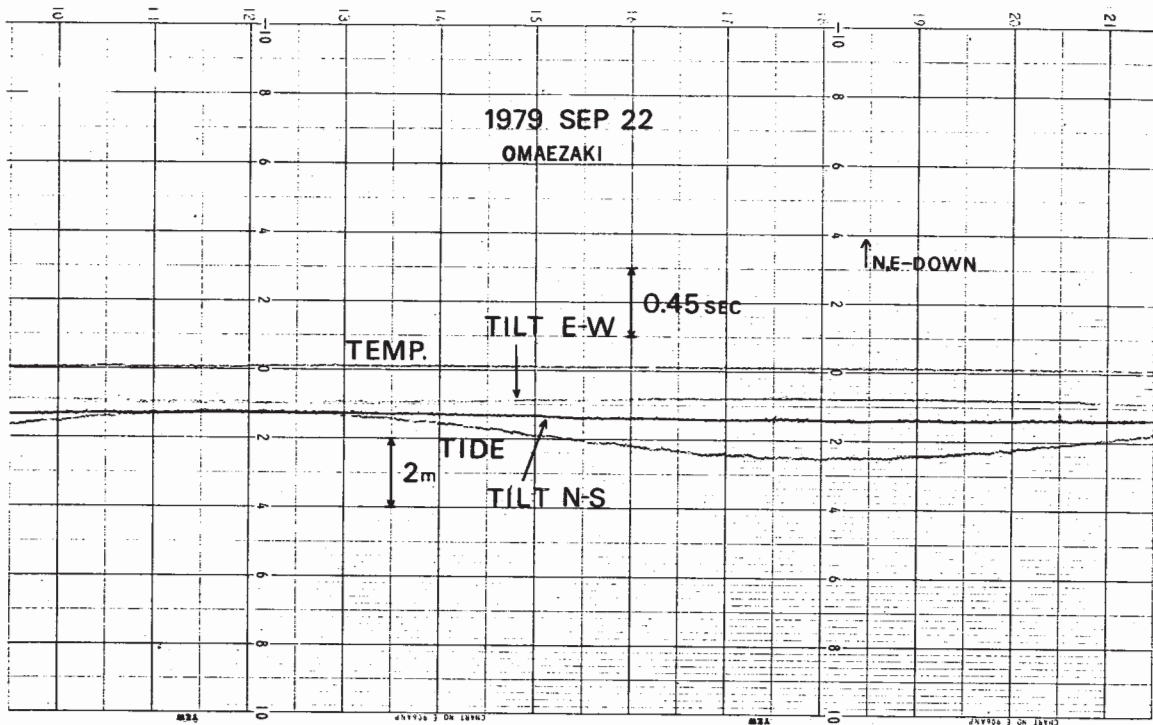
第2図 御前崎における埋込式歪計の異常な変化

Fig. 2 Anomalous change of borehole strainmeter at Omaezaki.



第3図 榛原，浜岡の埋込式歪計の記録

Fig. 3 Records of borehole strainmeters at Haibara and Hamaoka.



第4図 御前崎の埋込式傾斜計，温度計と御前崎港の検潮儀の記録

Fig. 4 Records of borehole tiltmeter, borehole thermometer and tide at Omaezaki.